

## 歯科放射線学特論・実習・臨床実習

演習, 第1・2学年, 前後期, 選択,  
セミナー・実習・臨床 第1・2学年 2・2・10単位,  
単位数 10

《キーワード》 顎・顔面・口腔領域、疾患、画像検査、画像診断、画像病理学、画像定量解析

《担当者名》 川島雄介 kawashima-y@hoku-iryo-u.ac.jp

### 【概要】

顎・顔面・口腔領域の疾患を検査画像により診断、定量解析できるようになるため、顎・顔面・口腔領域の多様な疾病構造を理解し、その疾病が検査画像でどのように描出されるかを理解すること、及び画像検査情報から基本的な疾患の画像診断ができることを目標にする。また、画像診断のために利用される各種画像検査の特性を理解したうえで臨床症例の画像診断報告書を作成できることを目標にする。さらに、顎・顔面・口腔領域の疾患の画像情報と病理組織情報の比較による画像診断の精度向上をはかるための基本的な病理組織解析も理解できることを目標にする。そのうえで、放射線物理学、放射線生物学を理解し、放射線被曝管理の基本を取得することも目標とする。

### 【学修目標】

1. 顎・顔面・口腔領域に発生する疾病の種類と特徴について説明できる。
2. 画像診断のために利用される各種画像検査の特性を説明できる。
3. 顎・顔面・口腔領域発生する疾病の画像所見を説明できる。
4. 生体情報の画像による基本的な定量解析を実行できる。
5. 顎・顔面・口腔領域に発生する疾患の基本的な病理組織所見と診断画像所見を比較して説明できる。
6. 一般的な画像処理を実行でき、生体画像の定量計測を行い、統計処理により有意因子を抽出できる。
7. X線撮影検査、X線CT検査、検査、X線造影検査を自ら実施し、その画像診断報告書を作成できる。
8. 放射線を利用した検査の被曝管理について説明し、それを実践できる。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	顎・顔面・口腔領域の疾病構造講義と画像解剖演習	顎関節症に関する診断、治療ができるように、顎・顔面・口腔領域の疾病構造と画像解剖を説明できる。	川島雄介
2	画像診断のために利用される各種画像検査に関する講義と演習	顎関節症に関する診断、治療ができるように、画像診断のために利用される各種画像検査を説明できる。	川島雄介
3	生体情報の画像による基本的な定量解析の講義と演習	顎関節症に関する診断、治療ができるように、画像による基本的な定量解析を実施できる。	川島雄介
4	顎・顔面・口腔領域に発生する疾患の基本的な病理組織所見と診断画像所見の比較演習	顎関節症に関する診断、治療ができるように、疾患の基本的な病理組織所見と診断画像所見を説明できる。	川島雄介
5	画像処理と生体画像の定量計測、及び統計処理演習	顎関節症に関する診断、治療ができるように、画像処理と生体画像の定量計測、及び統計処理を実施できる。	川島雄介
6	放射線の物理的な性質や生物学的影響に関する講義と放射線被曝管理演習	顎関節症に関する診断、治療ができるように、放射線の物理的な性質や生物学的影響を説明でき、放射線被曝管理を実施できる。	川島雄介
7	画像検査実施、及び画像診断報告書作成演習	顎関節症に関する診断、治療ができるように、画像検査と画像診断を実施できる。	川島雄介
8	画像診断に関する症例検討演習、カンファレンス発表演習		川島雄介
9	画像診断に関する臨床症例の学会発表及び論文発表		川島雄介

### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

出席状況、課題提出レポート、規定症例以上の画像診断報告書作成100%

**【教科書】**

授業中に指示する。

**【参考書】**

授業中に指示する。

**【備考】**

専門医取得に必要な画像検査及び画像診断報告書作成症例数の半数以上があること。

**【学修の準備】**

歯科放射線学の教科書と画像診断学の専門書を図書館などで検索し、常に参照、予習できるようにしておくこと。専門医取得に必要な要件をあらかじめ把握し、計画的に準備すること。